

椅子に掛けて居た、多分帳簿でもつけていたのだろう。子供は一寸の間先生の左側に立つて居つたが、もう待ちきれないと云ふ風で今度は後を廻つて右側に立つて稍憶病さうに花束を先生の前へ差し出すのであつた。先生は一寸見て「ハイ、そこへ丁寧に置いておきなさい」と云つて再び仕事にかゝつた。子供の首はうなだれ頬は涙をせき止める爲めに振へて居た。この様子を眺めて居た婦人は心の沈むのを覺えた。そして遂に翌日他の幼稚園へ連れて行つた。この保母は保育の仕事に不注意なため遂にその捕るべき機会を逃がしてしまつたのであつた。

以上積極、消極の二例に由りて、朝の時間の子供と保母との接觸の價値は充分明かになつた事と思ふ。

抱かれない心いつばい

愛ちやんはおつむが痛い

よりそふてくる

(K子)

十二月のはじめの可成寒い風の吹く或晩のこと
一露人の家庭を訪れた。家族は父と母と十歳になる姉と其の年の五月に生れた赤ちやん。

母の手から父の手へそして又客人である私の膝へうつされたその蔷薇色の頬の赤ちやん。抱いてみるとあまり身體が直接に感じられるのでよく見るとうすい地の短い簡単な肌着にも一つネルのコンビーション(キチンと寸法をあはせずブラウ、な出來の)だけ、他にはチャン／＼一つ布一つない。

小さい手足をピン／＼自由にのびたりちぢめたりはづみ人形の様な活動振り。

私の通されたのは居間であつたからはじめはもしや着物を更へる所ではないかと思つてゐたがいつまでたつてもそんな様子はない。お元氣ですれと云ふと、もう足をはこびますよ、とお父さんに支へられて可愛いわんよを交り番に動かしてゐる。半年の赤ちやん、冬のよなかに。

もし日本の子だつたらチル幾杖わたいれちやん／＼は勿論幾重にもまきつけたあのおむつ。身動きすらようやく、なるほど。と私は思つた。

日本の赤ちやんは着すぎますね私達は國でも室内はこれ以上させません。とはお父さんの説明であつた。勿論室の中は(火鉢で)充分に暖められてはあつた。